

<活動報告>

高校生の対人関係能力を高めるために看護系大学の学生が行ったピア・エデュケーションの効果

大久保牧子 福島裕子
岩手県立大学看護学部

要旨

高校生の対人関係能力を高めるために看護系大学の学生が行ったピア・エデュケーションの効果を明らかにすること目的とし、A高校1年生42名に質問紙調査を実施した。ピア・エデュケーション後に、人との付き合い方に関するトラブルや悩みへの対応や、相手の気持ちを考えて伝えることができることと認識する生徒が男女ともに増えていた。また、「自分には他人から認められていることがある」、「自分を大切にしたいと思う」と回答した生徒が男女ともに増えていた。さらに、約7割以上の生徒は活動内容をよく理解し、友達とのかかわり方について学びがあったと述べていた。ピア・エデュケーションは、グループワーク中の対話を通して、自分の考えや思いを表現することの大切さを体験的に学ぶ機会となり、人間関係を構築するために必要な力を効果的に育むことができると考える。また、友達からの承認を得るプログラムは、自尊感情を高める要因の一つとなると推察する。

キーワード：ピア・エデュケーション，高校生，対人関係能力

はじめに

岩手県立大学看護学部は、若年者の人工妊娠中絶の実施率や性感染症への罹患率が全国で上位にあるという岩手県の思春期保健の課題を受け、2005年から学生の自主組織である「ピアいふ」によるピア活動を開始した(福島, 2009)。思春期保健におけるピアカウンセリングは、同じ世代を生きるピア=仲間として共に考え、同じような立場で経験を共有する仲間同士が、対等な立場で話を聞きあい、サポートや共に学ばう活動である(高村, 2005)。発足当初の岩手県のピア活動は、その時代の課題としてクローズアップしていた性の健康問題へのアプローチとして、性の健康に関する知識の提供や望ましい恋愛や性行動をとともに考える場を主な活動としていた。しかし、近年は高校生の性行動の経験率は半数ほどに減少し、異性とのかかわりを面倒くさいと感じる高校生が4割ほどで男女交際への関心も低下している(岩手県高等学校教育研究会学校保健部会 いわて思春期研究会, 2015)。

その一方で、「少年の問題行動等に関する調査研究

協力者会議(文部科学省, 2001)」の報告では、児童生徒の問題行動の要因として、社会性が未発達であり、対人関係がうまく結べないことを挙げている。そして、文部科学省(2004)の「児童生徒の問題行動対策重点プログラム(最終まとめ)」によると、自分の気持ちや考えを適切に相手に伝えることや、他者を認め互いに尊重し合い望ましい人間関係を構築する指導を推進している。このように、特に思春期保健教育を対象としている高等学校においては、対人関係能力を高める教育活動が課題となっている。

前田他(2007)は、ピアカウンセリングは、性行動に問題を抱えていると思われる高校生にとってもコミュニケーションスキルを習得する場となっており、対人関係や自己理解、人生に対する認識を深める機会となったことを報告している。また、田邊他(2016)は、思春期ピアカウンセリング講座を受講した高校生は、多様な価値観を受け入れ、友達を大切にし、困ったときには誰かに相談しようと思うようになったことを明らかにしている。さらに、忠津他(2002)は、ピ

アカウンセリング手法を取り入れたピア・エデュケーションの効果を明らかにし、思春期健康支援システムのなかの1つの強力な手段であると述べている。このようなことから、ピアいぶのピア活動は、思春期保健の対象となる児童・生徒の自己理解や対人関係スキル習得の機会となると考えた。そこで、岩手県内の中学校や高等学校から交友関係のあり方が自我発達に影響する思春期の時期の望ましい成長への教育活動への協力依頼を受け、対人関係能力を高める援助内容を取り入れたピア・エデュケーションを展開するようになった。

ピアいぶが実施しているピア・エデュケーションでは、対象となる集団の対人関係にかかわる課題に合わせたプログラムを検討し提供している。また、グループリーダーとしてかかわり、ディスカッションの問題を提起し、グループ活動が活性化するようにサポートしている。そこで、提供しているピア・エデュケーションプログラムとサポート方法が、高校生の対人関係能力の自己認識と自尊感情にどのような変化をもたらしたかを明らかにするための質問紙調査を行い、その結果をもとに今後のピア・エデュケーションの展開方法を検討する一助とする。

研究目的

高校生の対人関係能力に関する教育活動において看護系大学の学生が行ったピア・エデュケーションの効果を実証する。

方法

1. 調査対象：看護系大学の学生が実施するピア・エデュケーションに参加した県内のA高校1年生42名
2. 調査時期：平成28年8月
3. ピア・エデュケーションプログラムとサポート内容
A高校の担当者とピアいぶ代表者、研究者の3名でピア・エデュケーション事前打ち合わせを実施し、高校1年生（以下、生徒）の普段の様子や、悩み、興味関心について情報共有した。対象となる集団の対人関係にかかわる課題の一つとして、「無料通話アプリLINE（以下、LINEとする）でのピアプレッシャー」があることから、以下のプログラムとした。

1) 目標

- (1) 言葉や物事の捉え方は人それぞれ違うことを理解し、相手の気持ちに配慮した伝え方を考えることができる。

- (2) お互いを認め大切にすることができる。

2) 構成的グループエンカウンター（Structured Group Encounter 以下、SGEとする）：バースデイレイン（10分）

ねらい…非言語的コミュニケーションを通して緊張をほぐし、リレーションシップを深める。

活動…ジェスチャーだけで、お互いの誕生日を認識しながら、誕生日順に並ぶ。1月1日に一番近い人が先頭で、12月31日に一番近い人が最後尾になる。2クラスで、並び終わるのに要した時間を競う。また、最後に、答え合わせで先頭の人から順番に誕生日を発表してもらう。

サポート…ピアいぶリーダーは、活動の説明と進行を行う。ピアいぶサブメンバーは活動に参加し、活動の活性化をするよう支援する。また、自分が担当するグループの生徒の様子を観察する。

3) グループワーク：ケーススタディ（50分）

事例…サッカー部に所属する二人が、負けた試合についてLINEでやり取りした。

ねらい…LINEのやり取りの事例を通して、1つの言葉や文字には様々な意味が含まれており、捉え方次第で全く異なる意味になることや誤解を招く可能性があることを体験的に学ぶ。また、SNS（Social Networking Service）やE-mail（Electronic mail）は相手の気持ちや言葉の捉え方をよく考え使用することが大切であることを理解する。

活動…グループ構成は、クラス別に、生徒4名にピアいぶメンバー1名とした。グループごとに提起された問題を話し合った後、発表を通してグループごとの考えを共有する。

サポート…ピアいぶリーダーは、ケースの紹介と問題提起をし、進行を行う。ピアいぶサブメンバーは、グループリーダーとしてかかわり、ピアカウンセリング手法を取り入れながらディスカッションが活性化するように支援する。

4) 構成的グループエンカウンター（SGE）：認め合いっこ（35分）

ねらい…他者と自己の良い点、魅力に気づき、互いに認め合うことで自己肯定感を高める

きっかけにする。

活動…グループの4名について、それぞれ良いところをカードに書く。書き終わったらカードを読み上げながら交換をする。自分がもらったカードを台紙に張る。

サポート…ピアいぷリーダーは、活動の説明と全体調整を行う。ピアいぷサブメンバーは、担当グループの生徒の良いところをカードに書き、相手に贈る。また、友達の良いところが書けない生徒へは、関係性を想起させたり、例示したりして書けるように支援する。

- 5) 全体シェアリング：活動の振り返りとまとめ (5分)
- ・生徒から気付いたことや感想を発表
 - ・ピアいぷリーダーから、学びの定着や理解させるためのコメント

4. 調査方法

独自に作成した質問紙を用いた、無記名自記式質問紙調査。

1) ピア・エデュケーション前の質問紙調査

ピア・エデュケーション前日のショートホームルーム時間に、学級担任が対象の高校生にピア・エデュケーション前の質問紙と封筒を配布し、共通の読み上げ原稿にて調査の主旨や目的、回答方法などを説明した。また、質問紙の表紙には、調査目的や強制ではないこと、回答したくない場合は白紙でもかまわないことなどを明記した。

記入に要した時間は、2分程度であった。記入した調査用紙は、生徒自身が封筒に入れて封をして、回収ボックスにて回収した。回収した質問紙が入った封筒は、ピア・エデュケーション当日に研究者自身がA高校の担当者から受け取った。

2) ピア・エデュケーション後の質問紙調査

ロングホームルームに実施したピア・エデュケーション後に、研究者から事後の質問紙及び封筒を配布した。配布時に表紙に記載している調査の主旨や目的、回答方法、強制ではないこと、回答したくない場合は白紙でもかまわないことなどを説明した。記入に要した時間は、4分程度であった。記入した調査用紙は、生徒自身が封筒に入れて封をして、回収ボックスにて回収した。

5. 調査票の内容

1) 属性 (性別)

2) 対人関係能力の自己認識と自尊感情について

「人との付き合い方に関するトラブルや悩みを対処できるか」、「何かを相手に伝える時に、相手の気持ちを考えて伝えることができるか」、「自分を大切にしたいと思うか」、「他人から認められているところがあると思うか」の4つの項目について、それぞれ4件法で尋ねた。

質問項目「人との付き合い方に関するトラブルや悩みを対処できるか」と「何かを相手に伝える時相手の気持ちを考えて伝えることができるか」の尺度は、「できる」、「どちらかといえばできる」、「どちらかといえばできない」、「できない」とした。「他人から認められているところがあると思うか」の尺度は、「ある」、「どちらかといえばある」、「どちらかといえばない」、「ない」とした。「今、自分を大切にしたいと思っているか」の尺度は、「思っている」、「どちらかといえば思っている」、「どちらかといえば思っていない」、「思っていない」とした。

3) 生徒たちが認識するピア・エデュケーションに対する評価

生徒たちが認識するピア・エデュケーションに対する評価は、ピア・エデュケーション後に質問紙で回答してもらった。「活動内容は理解できたか」、「活動は楽しかったか」、「活動で自分の知らなかった一面を知ることができたか」、「活動はこれからのあなたに役に立ちそうか」、「もう一度参加したいと思うか」の5項目を設定し、それぞれ4件法で尋ねた。また、「活動内容を理解した理由」と「活動の感想や印象」については、自由記述で尋ねた。

質問項目「活動内容は理解できたか」の尺度は「よく理解できた」、「どちらかといえば理解できた」、「どちらかといえば理解できない」、「理解できない」、「活動は楽しかったか」の尺度は「楽しかった」、「どちらかといえば楽しかった」、「どちらかといえば楽しくなかった」、「楽しくなかった」、「活動で自分の知らなかった一面を知ることができたか」の尺度は「できた」、「どちらかといえばできた」、「どちらかといえばできなかった」、「できなかった」、「活動はこれからのあなたに役に立ちそうか」の尺度は「役立つ」、「どちらかといえば役立つ」、「どちらかといえば役立たない」、「役立たない」、「もう一度参加したいと思うか」の尺度は「参加したい」、「どちらかといえば参加したい」、「どちらかといえば参加したくない」、「参加したくない」。

くない」とした。

6. 分析方法

選択式質問項目については、統計パッケージソフト SPSS (ver.19) を使用し、単純集計を行った。また、自由記述については、記述された内容を精読し、内容ごとに類似するものをカテゴリー化した。

7. 倫理的配慮

研究者が A 高校の担当者とピア・エデュケーション事前打ち合わせの時に、文書および口頭にて研究の趣旨等の説明と協力依頼を行った。その後、A 高校の担当者を通じて、校長の承諾を得た。調査対象者には、文書にて研究の趣旨説明と協力の依頼を行った。文書には、調査票への回答は無記名であり結果公表の際には個人が特定できないこと、研究への協力は自由意思によるものであり強制ではないこと、研究に協力することの利益と不利益、個人情報取り扱いと保護、研究成果の公表、調査票への回答をもって同意が得られたこととすること、について記載した。

質問紙に記入後は、対象者自身が封筒に入れ封をし、所定のボックスで回収し、高校で開封することなく、研究者の手元に回収されるようにした。対象からの回答はデータ番号をつけて管理し、個人名や学校名が特定されないように配慮し、研究終了後、全データは消去し、紙媒体のものはシュレッダーをかけて破棄した。

なお、本研究は、平成 28 年 8 月に岩手県立大学看護学部倫理審査委員会を受審（受付番号 16 - 27）し「非該当」の審査結果を得て実施した。

結果

1. 調査対象者の属性

看護系大学の学生が実施するピア・エデュケーションに参加した県内の A 高校 1 年生 42 名を対象として調査を実施した。ピア・エデュケーション前は、42 名（回収率：100%）から回答が得られ、有効回答数（率）は 42 名（100%）であった。また、ピア・エデュケーション後は、38 名（回収率：90.5%）から回答が得られ、有効回答数（率）は 38 名（100%）であった。ピア・エデュケーション前の対象の生徒は、男子 22 名（52.4%）、女子 18 名（42.8%）、その他 1 名（2.4%）であり、ピア・エデュケーション後は男子 22 名（57.9%）、女子 14 名（36.9%）、その他 1 名

表 1. 対象の属性

		活動前		活動後	
		人数	(%)	人数	(%)
性別	男子	22	(52.4)	22	(57.9)
	女子	18	(42.8)	14	(36.9)
	その他	1	(2.4)	1	(2.6)
	無回答	1	(2.4)	1	(2.6)
	計	42	(100.0)	38	(100.0)

表 2. 男女別ピア・エデュケーション前後のトラブル・悩み対処効力の比較

		できる		どちらかといえはできる		どちらかといえはできない		できない	
		人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
ピア・エデュケーション前									
	男子 (n=22)	4	(18.2)	15	(68.2)	1	(4.5)	2	(9.1)
	女子 (n=18)	2	(11.1)	11	(61.1)	5	(27.8)	0	(0.0)
	その他・無記入 (n=2)	1	(50.0)	0	(0.0)	1	(50.0)	0	(0.0)
	合計 (n=42)	7	(16.7)	26	(61.9)	7	(16.7)	2	(4.8)
ピア・エデュケーション後									
	男子 (n=22)	5	(22.7)	15	(68.2)	2	(9.1)	0	(0.0)
	女子 (n=14)	4	(28.6)	5	(35.7)	3	(21.4)	2	(14.3)
	その他・無記入 (n=2)	0	(0.0)	1	(50.0)	1	(50.0)	0	(0.0)
	合計 (n=38)	9	(23.7)	21	(55.3)	6	(15.8)	2	(5.3)

(2.6%) であった (表 1)。

2. ピア・エデュケーション前後の対人関係能力の比較

ピア・エデュケーション前後の対人関係能力の自己認識に関するアンケートの質問項目「人との付き合い方に関するトラブルや悩みを対処できるか（以下「トラブル・悩み対処効力」とする）」と、「何かを相手に伝える時相手の気持ちを考えて伝えることができるか（以下「相手の気持へ配慮」とする）」について、男女別に集計した。

トラブル・悩み対処効力について、ピア・エデュケーション前に「人との付き合い方に関するトラブルや悩みを対処ができる」と認識している男子は 4 名（18.2%）、女子は 2 名（11.1%）、その他の性別と性別無記入者を合わせた全体では 7 名（16.7%）であった。ピア・エデュケーション後に「人との付き合い方に関するトラブルや悩みを対処ができる」と認識した男子は 4.5 ポイント、女子は 17.5 ポイント、全体では 7.0 ポイント増えていた (表 2, 図 1, 図 2)。

相手の気持へ配慮について、ピア・エデュケーショ

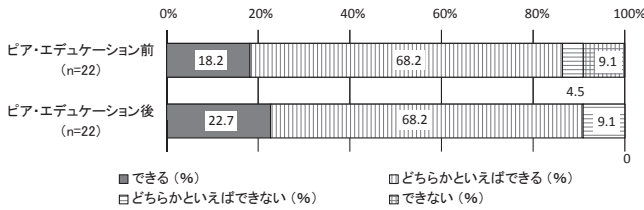


図1. 男子のピア・エデュケーション前後のトラブル・悩み対処効力の比較

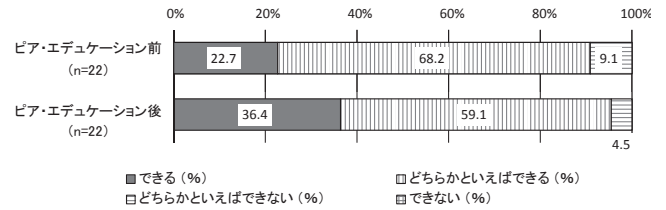


図3. 男子のピア・エデュケーション前後の相手の気持ちへ配慮の比較

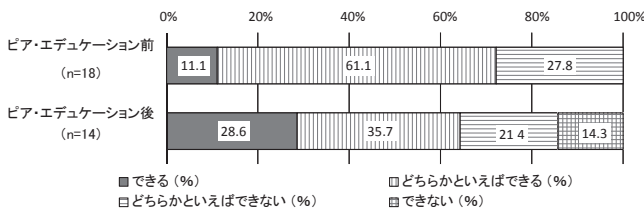


図2. 女子のピア・エデュケーション前後のトラブル・悩み対処効力の比較

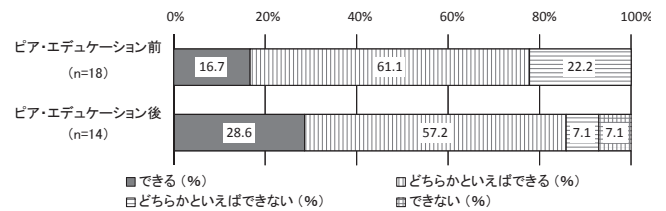


図4. 女子のピア・エデュケーション前後の相手の気持ちへ配慮の比較

表3. 男女別ピア・エデュケーション前後の相手の気持ちへ配慮の比較

	できる		どちらかといえはできる		どちらかといえはできない		できない	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
ピア・エデュケーション前								
男子 (n=22)	5	(22.7)	15	(68.2)	2	(9.1)	0	(0.0)
女子 (n=18)	3	(16.7)	11	(61.1)	4	(22.2)	0	(0.0)
その他・無記入 (n=2)	0	(0.0)	2	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
合計 (n=42)	8	(19.0)	28	(66.7)	6	(14.3)	0	(0.0)
ピア・エデュケーション後								
男子 (n=22)	8	(36.4)	13	(59.1)	1	(4.5)	0	(0.0)
女子 (n=14)	4	(28.6)	8	(57.2)	1	(7.1)	1	(7.1)
その他・無記入 (n=2)	1	(50.0)	1	(50.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
合計 (n=38)	13	(34.2)	22	(57.9)	2	(5.3)	1	(2.6)

ン前に「何かを相手に伝える時相手の気持ちを考えて伝えることができる」と認識している男子は5名(22.7%), 女子は3名(16.7%), その他の性別と性別無記入者を合わせた全体では8名(19.0%)であった。ピア・エデュケーション後に「何かを相手に伝える時相手の気持ちを考えて伝えることができる」と認識した男子は13.7ポイント, 女子は11.9ポイント, 全体では15.2ポイント増えていた(表3, 図3, 図4)。

3. ピア・エデュケーション前後の自尊感情の比較

ピア・エデュケーション前後の自尊感情に関するアンケートの質問項目「他人から認められているところがあると思うか(以下「他者評価認知」とする)」、「今、自分を大切にしたいと思っているか(以下「自尊感情」とする)」について、回答項目ごとに集計をした。を比較した。

他者評価認知について、ピア・エデュケーション前に「他人から認められているところがある」と思っている男子は4名(18.2%), 女子は0名(0.0%), その他の性別と性別無記入者を合わせた全体では4名(9.5%)であった。ピア・エデュケーション後に「他人から認められているところがある」と思った男子は4.5ポイント, 女子は7.2ポイント, 全体では8.9ポイント増えていた(表4, 図5, 図6)。

自尊感情について、ピア・エデュケーション前に「自分を大切にしたいと思っている」と思っている男子は10名(45.4%), 女子は4名(22.2%), その他の性別と性別無記入者を合わせた全体では16名(38.1%)であった。ピア・エデュケーション後に「自分を大切にしたいと思っている」と思った男子は18.3ポイント, 女子は13.5ポイント, 全体では14.6ポイント増えていた(表5, 図7, 図8)。

表4. 男女別ピア・エデュケーション前後の他者評価認知の比較

	認められているところがある		どちらかといえば認められているところがある		どちらかといえば認められているところがない		認められているところがない	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
ピア・エデュケーション前								
男子 (n=22)	4	(18.2)	12	(54.6)	3	(13.6)	3	(13.6)
女子 (n=18)	0	(0.0)	11	(61.1)	7	(38.9)	0	(0.0)
その他・無記入 (n=2)	0	(0.0)	2	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
合計 (n=42)	4	(9.5)	25	(59.5)	10	(23.8)	3	(7.1)
ピア・エデュケーション後								
男子 (n=22)	5	(22.7)	12	(54.6)	3	(13.6)	2	(9.1)
女子 (n=14)	1	(7.2)	10	(71.4)	2	(14.3)	1	(7.1)
その他・無記入 (n=2)	1	(50.0)	1	(50.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
合計 (n=38)	7	(18.4)	23	(60.5)	5	(13.2)	3	(7.9)

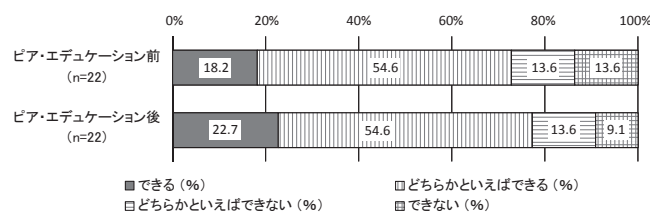


図5. 男子のピア・エデュケーション前後の他者評価認知の比較

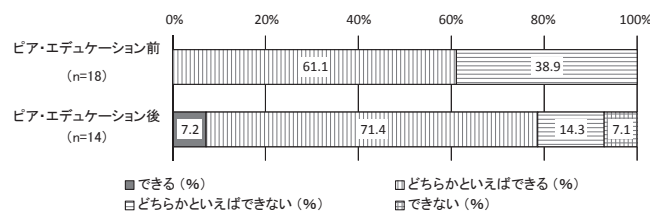


図6. 女子のピア・エデュケーション前後の他者評価認知の比較

表5. 男女別ピア・エデュケーション前後の自尊感情の比較

	大切にしたいと思っている		どちらかといえば大切にしたいと思っている		どちらかといえば大切にしたいと思っていない		大切にしたいと思っていない	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
ピア・エデュケーション前								
男子 (n=22)	10	(45.4)	8	(36.4)	2	(9.1)	2	(9.1)
女子 (n=18)	4	(22.2)	13	(72.2)	1	(5.6)	0	(0.0)
その他・無記入 (n=2)	2	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
合計 (n=42)	16	(38.1)	21	(50.0)	3	(7.1)	2	(4.8)
ピア・エデュケーション後								
男子 (n=22)	14	(63.7)	6	(27.3)	1	(4.5)	1	(4.5)
女子 (n=14)	5	(35.7)	7	(50.0)	2	(14.3)	0	(0.0)
その他・無記入 (n=2)	1	(50.0)	1	(50.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
合計 (n=38)	20	(52.6)	14	(36.8)	3	(7.9)	1	(2.6)

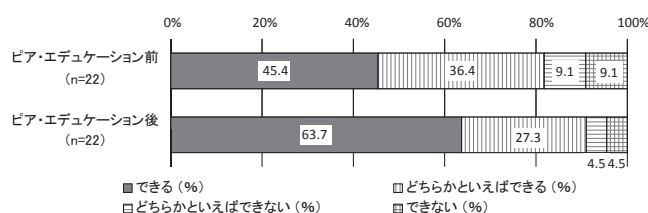


図7. 男子のピア・エデュケーション前後の自尊感情の比較

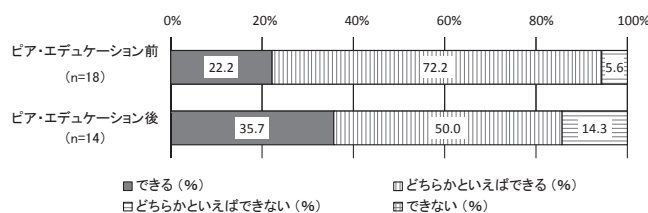


図8. 女子のピア・エデュケーション前後の自尊感情の比較

4. ピア・エデュケーションの評価

ピア・エデュケーション後に行ったアンケートの質問項目「活動内容は理解できたか」「活動は楽しかったか」、「活動で自分の知らなかった一面を知ることができたか」、「活動はこれからのあなたに役に立ちそうか」、「もう一度参加したいと思うか」について、回答項目ごとに集計をした。また、「活動内容理解の理由」と「活動の感想や印象」について自由記述された内容は、文脈に留意しながら抽出し、類似するものをカテゴリー化した。なお、文章中のサブカテゴリーを [], カテゴリーを【 】で示した。

ピア・エデュケーション後、「活動内容をよく理解した」男子は16名(72.7%)、女子は11名(78.6%)、その他の性別と性別無記入者を合わせた全体では29名(76.3%)であった(表6)。活動内容をよく理解した理由として最も多かったのは、[意見交流ができて楽しかった]や[自分の考えを伝えられた]といった、【対話による学び合い】ができたからであった。次に多かったのは、[相手を尊重したコミュニケーションについて考えられた]、[人とのかかわり方について考えられた]、[事例がわかりやすかった]といった【ケーススタディによる学び】ができたからであった。また、[学生がわかりやすく説明してくれた]という【ピア・サポートによる学びの促進】も理由であった(表11)。

表6. 男女別活動の内容理解についての感想

	よく理解できた		どちらかといえば理解できた		どちらかといえば理解できない		理解できなかった	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
男子 (n=22)	16	(72.7)	6	(27.3)	0	(0.0)	0	(0.0)
女子 (n=14)	11	(78.6)	3	(21.4)	0	(0.0)	0	(0.0)
その他・無記入 (n=2)	2	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
合計 (n=28)	29	(76.3)	9	(23.7)	0	(0.0)	0	(0.0)

表7. 男女別活動の楽しさについての感想

	楽しかった		どちらかといえば楽しかった		どちらかといえば楽しくなかった		楽しくなかった	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
男子 (n=22)	19	(86.4)	3	(13.6)	0	(0.0)	0	(0.0)
女子 (n=14)	12	(85.7)	2	(14.3)	0	(0.0)	0	(0.0)
その他・無記入 (n=2)	2	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
合計 (n=28)	33	(86.8)	5	(13.2)	0	(0.0)	0	(0.0)

「活動は楽しかった」男子は19名(86.4%)、女子は12名(85.7%)、その他の性別と性別無記入者を合わせた全体では33名(86.3%)であった(表7)。

「今回の活動で自分の知らなかった一面を知ることができた」男子は3名(13.6%)、女子は5名(35.7%)、その他の性別と性別無記入者を合わせた全体では9名(23.7%)であった(表8)。

「今回の活動はこれからの自分に役立つと思った」男子は18名(81.8%)、女子は10名(71.4%)、その他の性別と性別無記入者を合わせた全体では30名(78.9%)であった(表9)。

「今回のような活動にもう一度参加したいと思った」男子は14名(63.6%)、女子は8名(57.1%)、その他の性別と性別無記入者を合わせた全体では24名(63.2%)であった(表10)。活動の感想や印象に残っていることの自由記述には、【活動への感想】として、[活動が楽しかった]、[意見交流が楽しかった]、[友達とのかかわり方について学びがあった]といった記載があった。また、【ピア・サポートへの感想】には、[ピアいぶのサポートがよかった]といった記載があった(表12)。

考察

本研究の目的は、高校生の対人関係能力に関する教育活動において看護系大学の学生が行ったピア・エデュケーション実践の効果を明らかにすることである。

表8. 男女別活動で自分の知らなかった一面を知ることができたについての感想

	知ることができた		どちらかといえば知ることができた		どちらかといえば知ることができない		知ることができなかった	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
男子 (n=22)	3	(13.6)	15	(68.2)	2	(9.1)	2	(9.1)
女子 (n=14)	5	(35.7)	8	(57.2)	1	(7.1)	0	(0.0)
その他・無記入 (n=2)	1	(50.0)	1	(50.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
合計 (n=28)	9	(23.7)	24	(63.2)	3	(7.9)	2	(5.3)

表9. 男女別活動がこれからの自分に役立つかについての感想

	役立つ		どちらかといえば役立つ		どちらかといえば役立つ		役立つ	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
男子 (n=22)	18	(81.8)	3	(13.6)	1	(4.6)	0	(0.0)
女子 (n=14)	10	(71.4)	4	(28.6)	0	(0.0)	0	(0.0)
その他・無記入 (n=2)	2	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
合計 (n=28)	30	(78.9)	7	(18.4)	1	(2.7)	0	(0.00)

表10. 男女別活動にもう一度参加したいかについての感想

	参加したい		どちらかといえば参加したい		どちらかといえば参加したくない		参加したくない	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
男子 (n=22)	14	(63.6)	7	(31.8)	1	(4.6)	0	(0.0)
女子 (n=14)	8	(57.1)	6	(42.9)	0	(0.0)	0	(0.0)
その他・無記入 (n=2)	2	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
合計 (n=28)	24	(63.2)	13	(34.2)	1	(2.6)	0	(0.00)

た。その結果、以下の事が明らかになった。

1. 対人関係能力に関する自己認識について

ピア・エデュケーション前よりピア・エデュケーション後に、人との付き合い方に関するトラブルや悩みへの対処や、何かを相手に伝える時相手の気持ちを考えて伝えることができると認識する生徒が男女ともに増えていた。今回のピア・エデュケーションでは、グループワークを通して、「言葉や物事の捉え方は人それぞれ違うことを理解し、相手の気持ちに配慮した伝え方」を体験的に学ぶ機会を提供した。また、ケーススタディには、身近な問題として興味をもって参加できる事例を準備した。さらに、ピアいぶサブメンバーは、グループワーク時にディスカッションテーマについて解説し、ディスカッションが活性化するようにピアカウンセリング手法を取り入れ対話的に生徒らの

表11. 活動が理解できた理由

カテゴリー	サブカテゴリー	記述内容	
対話による学び合い	意見交流ができて楽しかった (12)	ピアいぶの皆さんと話し合えたから	
		自分の周りの人がどういう意見を持っているのか交流できたから	
		楽しくいい話し合いができたと思う	
		みんなと意見を交流しあうことができたから	
		みんなと話し合い、楽しく交流することができたから	
		みんなと楽しくできたし、グループで話し合いながらできたから	
		みんなと話し合い、楽しくできたから	
		今回の活動では、普段あまりしゃべれない人としゃべったりなど、貴重な体験ができたからです	
		ほかの班とも意見が似ていたから	
		グループで考えてみて会話のやり方などをみんなで考えることができたからです	
		楽しくできたから	
		楽しかったから	
	自分の考えを伝えられた (6)	自分から意見などすることができた	
		人と話すときに気持ちを考えて話せたと思ったから	
		グループ内でもクラス内でも自分たちの意見やお互い感じたことをしっかり伝えられたから	
		スムーズに話せた	
		相手に自分が思っていることを伝えることができたから	
	ケーススタディによる学び	相手を尊重したコミュニケーションについて考えられた (9)	コミュニケーションをとることは大事
			相手に気持ちを伝えることの難しさと大切さを理解できた
相手の気持ちなどを考えようとしたから			
自分の気持ちを相手に伝えることの大切さを学ぶことができた			
自分の気持ちを相手にしっかりと伝えられているか考えることができたから			
ラインやメールなどで伝えるとき、人の気持ちを考えて送ったりすることを考えられた			
LINEなどの送る内容が相手を傷つけるときがあることが知ることができたから			
人のかかわり方について考えられた (8)		ひとつの言葉で人を傷つけてしまったりすることが分かった	
		人に伝えるということがこんなに難しいのかと実感できたから	
		今まで自分もあるようなことだったと思った	
		人の意見を読み取る活動だったから	
		人との関係について色々知ることができたので良かったから	
		これから気をつけていきたいと思ったから	
事例がわかりやすかった (2)	仲間の大切さも改めて知れたから		
	細かく質問に対して、その対処などを考えられたから		
ピア・サポートによる学びの促進	学生がわかりやすく説明してくれた (8)	LINEの例があったので分かりやすかった	
		分かりやすい例だった	
		皆さんが丁寧におしえてくれたから	
		説明が分かりやすかったからです	
		きちんと説明をしていただいたから	
		分かりやすく説明してくれたから	
		ゆっくり丁寧だったから	
		大学生の皆さんの説明や進め方が良かったからだと思います	
内容も分かりやすく説明してくれたから			
分かりやすく説明してくれた			

表12. 活動の感想・印象

カテゴリー	サブカテゴリー	記述内容		
活動への感想	活動が楽しかった (12)	ありがとうございましたまた機会があれば活動したいです		
		最初のうちは静かだったけど、色々していくうちに楽しくなってきた、よかったです		
		こういうことをする機会はあまりないのでとても楽しかった		
		楽しい活動があり面白かったです		
		とても楽しく学習できましたありがとうございました		
		とても楽しくまたしたいと思った		
		楽しく活動できましたありがとうございました		
		楽しかったです		
		楽しかったですありがとうございました		
		この活動ができてよかった		
		このような活動はとても大切なんだなと思いました		
		緊張したけれど、分かりやすかった		
活動への感想	意見交流が楽しかった (9)	自分の意見を話し合う場がもうけられたことがうれしかった		
		自分だったらということを上げて考えるのも良いと思いました		
		初めての活動だったが、色々意見を出したりして、できたので楽しかった		
		班のみんなと協力し合って、話し合いすることができた		
		自分がこんなに積極的に話せたのは初めてだと思うのでうれしかった		
		みんなと話し合いながらできたというのもとても楽しいことだった		
		自分で考えをしっかりと持って、それをみんなで共有できてよかったと思う		
		グループの皆との絆を深めることができたと思う		
		おもしろかったし、普段あんまりはなさない人ともはなせたからよかった		
		活動への感想	友だちとのかかわり方について学びがあった (8)	他者の気持ちを考え、誤解を招くようなことをしないように気をつけたいと思った
				自分の周りにいる友達の問題についてどう考えているのかという意見を聞いて有意義な時間だった
				自分たちが普段使っているメールについて話し合ったが、メールを使う際、注意することなどを新たに発見できたのでよかった
今後の生活にいかしていきたい				
メッセージは受け手側によりいろいろ感じるものが違っていたのでそれをこれから生かしたい				
相手に伝えるということは大事だということが分かった				
みんなと交流できてこれを機に伝えることの難しさやこれからの改善点を見つめることができた				
思ったことをしっかりと言葉にするのは難しく、自分は悪くないと思っていなくても相手には悪い印象に捉えられてしまうときがあることを学べて良かった				
活動への感想	SGE が楽しかった (3)			バースデイラインが印象に残りました 自分や周りのことをメッセージみたいに書いてもらったり書いたりするのが印象に残った 最後に認め合いをしたこと
	進学への希望			岩手県立大学看護学部に入りたい気持ちが高まりました
	活動の反省			あまり自分からは話そうとしていなかったもので、もう少し話してみればよかったと思った
ピア・サポートへの感想	ピアいぶ (看護学生) のサポートがよかった (5)			ピアいぶの方が優しく分かりやすく対応してくれてよかった
		ピアいぶの皆さんも、優しく接してくれて良かった		
		ピアいぶの皆さんは、優しく丁寧に教えてくださったので、とてもよかった		
		県大生の方々は優しく自分たちをしっかりとまとめてくれたので良かった		
		ピアいぶの皆さんは、自分たちの意見を崩さず、さらに広げてまとめてくれてとてもすごいなと思った		

考えを引き出すかわりを行った。

原田他 (2014) は、ケーススタディでは、事例について仲間と議論することで理解が深まることを報告している。また、丸岡他 (2009) は、思春期健康教育において、非日常的な学生ピア・サポーターが担当することで新鮮さや、ピア・サポーター特有の親しみやすさで授業が楽しく、わかりやすいものになっていたと指摘している。さらに、軸丸 (2005) は、看護基礎教育における基本的なカウンセリング技術の教育後、対話的対人関係形成技能の傾聴技能が高まったと述べている。

これらのことから、身近な問題をテーマにした体験的学習によるピア・エデュケーションは、思春期健康支援システムの中で有効な一つ的手段であると推察する。また、ディスカッション時に基本的なカウンセリング技術を持つ看護学生が対話的手法を活用してサポートとすることで、グループワークを通して言葉や物事の捉え方は人それぞれ違うことを理解して相手の気持ちに配慮した伝え方を考えることができたと考えられる。

2. 自尊感情について

ピア・エデュケーション前よりピア・エデュケーション後に、他人から認められているところがあると思っていたり、自分を大切にしたいと思っていたりする生徒が男女ともに増えていた。今回のピア・エデュケーションでは、他者と自己の良い点、魅力に気づき、互いに認め合う機会を提供した。また、ピアいぶサブメンバーは、グループメンバーの良い点や魅力に気づけるような視点を示し、生徒が互いに認め合えるよう促した。

岡田 (2011) は、現代青年の友人関係において、相手から受容されることを通して自尊感情の水準を高揚・維持しようとする過程が見出されたと報告している。また、白井 (2015) は、自尊感情の形成には他者との関係に依存していることを明らかにしている。このことから、友人からの承認の機会を組み入れたピア・エデュケーションのプログラムは、青年の自尊感情を高める要因の一つとなると推察する。

3. 受講した生徒が認識するピア・エデュケーションの評価について

今回のピア・エデュケーションに参加した約7割の生徒は、活動内容をよく理解できていた。ピア・エ

デュケーションでは、身近なトラブルの題材としてケーススタディを道具にして対話による学び合いが進められるよう、ピアいぶのサブメンバーが生徒の考えを引き出したり、認めたりするかわりを行った。また、約9割の生徒は活動が楽しく友達とのかかわり方について学びがあり、7割以上の生徒がこれからの自分に役立つと思っていた。ピア・サポート方法については、わかりやすく説明してくれ意見を整理して広げてくれたといった反応を示していた。

田村 (2017) は、ディスカッションにおいては、積極的な発言や議論の進行に関わるような質の高い発言が増加し、他者意見を傾聴し理解しようとするといったポジティブなコミュニケーション行為が見られ、対人関係能力や自己管理能力、課題解決能力などのジェネリックスキルの向上と深く関わっていることを明らかにした。また、田邊他 (2016) は、思春期ピアカウンセリング講座は他者の意見を傾聴し、友達の多様な価値観を尊重することの大切さを感じるきっかけとなり、受講した高校生は人間関係の構築についての認識を深めたと報告している。さらに、西山他 (2002) は、大学生と高校生といった斜め関係は、縦関係の例にあるような完全な師弟関係や専門家ではないユーザーが抱える課題に関して、信頼感や安心感が効果的に利用されていたと指摘している。

これらのことから、ピア・エデュケーションは、グループリーダーとしてグループのディスカッションで問題提起したり、話合いが活性化するよう支援したりするピアいぶメンバーのピア・サポートによって、自分の価値観を理解することや多様な価値観があることを理解できたと推察する。また、プログラムが「身近な問題」として興味をもって参加できる内容から、自分の考えや思いを表現することの大切さを体験的に学ぶ機会となったと考える。

結論

本研究の目的は、看護系大学の学生が高校生に対して行ったピア・エデュケーションの効果を確認することであった。その結果、以下の事が確認された。

1. 高校生は、友達等とのコミュニケーションを通して、対人関係の築き方を学ぶ時期である。この時期に、ピア・エデュケーションでの学びを深めることにより、人間関係を構築するために必要な力を効果的に育むことができると考えた。

2. 友達からの承認の機会を組み入れたピア・エデュケーションのプログラムは、思春期の自尊感情を高める要因の一つとなると推察した。

3. ピア・エデュケーションは、グループ活動中の対話を通して、自分の価値観を理解することや多様な価値観があることを理解すること、および自分の考えや思いを表現することの大切さを体験的に学ぶ機会であった。

高校生は、友達等とのコミュニケーションを通して、対人関係の築き方を学ぶ時期である。この時期に、ピア・エデュケーションでの学びを深めることにより、人間関係を構築するために必要な力を効果的に育むことができると考える。

しかし、対人関係能力といったスキル学習には、望ましい対応の確認後（モデリング）、練習を行い、（ロールプレイ・リハーサル）、スキル活用と評価（フィードバック）が必要である。ピア・エデュケーション前後の対人関係能力に関する自己認識についての差は認められなかったことは、100分という短い時間の1回の活動での限界と考えた。

引用文献

- 福島裕子（2009）：若者の自主企画による性の健康とセクシュアリティに関する情報発信の効果，岩手県立大学看護学部紀要，11，59-70.
- 原田要之助，久保知裕，木村勇一（2014）：SNSの利用者意識を高めるケーススタディの一考察ーリスク意識の啓発プログラムの開発ー情報処理学会研究報告，65（1），1-10.
- 岩手県高等学校教育研究会学校保健部会 いわて思春期研究会（2015）：高校生の生と性に関する調査（報告書）.
- 軸丸清子（2005）：大学看護学科学生のカウンセリング技術養成教育の評価に関する研究，日本看護研究学会雑誌，28（5），55-62.
- 前田ひとみ，高村寿子，渡邊至，他（2007）：高校生を対象とした大学生による思春期ピアカウンセリング

の評価（I），南九州看護研究誌，5，11-18.

丸岡里香，百々瀬いづみ，フランク J.J，他（2009）：教育課程に活用するピア・エデュケーション活動の効果と課題，北翔大学北方圏学術情報センター年報，1，33-38.

文部科学省（2001）：少年の問題行動等に関する調査研究協力者会議報告（概要） https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2016/05/12/1370854_010.pdf [検索日 2019年10月22日]

文部科学省（2004）：児童生徒の問題行動対策重点プログラム（最終まとめ） http://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/286794/www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/10/04100501.htm [検索日 2019年10月22日]

西山久子，山本力（2002）：実践的ピアサポートおよび仲間支援活動の背景と動向 - ピアサポート / 仲間支援活動の起源から現在まで一，岡山大学教育実践総合センター，2，81-93.

岡田努（2011）：現代青年の友人関係と自尊感情の関連について，パーソナリティ研究，20（1），11-20.

白井利明（2015）：自尊感情を高める教育実践を再考する，大阪教育大学紀要，64（1），147-156.

忠津佐和代，津島ひろ江，池田理恵，他（2002）：ピアカウンセリング手法を用いた思春期性教育とその実践，川崎医療福祉学会誌，12（2），259-270.

高村寿子（2005）：思春期の性の健康を支えるピアカウンセリング・マニュアルーピアカウンセラー（学生）版，小学館，東京.

田村美恵（2017）：アクティブ・ラーニング型授業におけるコミュニケーション活動の効果，神戸外大論叢，67（2），5-23.

田邊綾子，鶴田来美，長谷川珠代，他（2016）：思春期ピアカウンセリング講座を受講した高校生の友人との人間関係構築に関する認識，日本公衆衛生看護学会誌，5（3），259-65.

（2019年12月19日受付，2020年3月12日受理）

< Practice Report >

The Effectiveness of Peer Education Conducted by
University Nursing Students'
to Improve High School Students Interpersonal Skills

Makiko Okubo Yuko Fukushima
Iwate Prefectural University

Keywords : Peer Education, High Schools Students, Interpersonal Skill